

## メッセージアウトライン

### コリント人への手紙 第一12:28～31 「組織としての教会」

[28]「そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行う者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです」

27節までで教会は人間のからだにたとえられたが、ここからは具体的にその組織的な面が教えられていく。28節は教会を形づくるクリスチャン一人一人に与えられている御霊の賜物を具体的に生かしていくための秩序づけであり、教会を成長、前進させるために必要な務めである。①使徒…厳密な意味では使徒1:22にあるように主イエスが地上におられた時にいつも行動を共にし、教えを聞き、主が十字架につけられた後の復活もその目で目撃した弟子たち。いわゆる12弟子がこれにあたる。しかし、さらに広い意味ではバルナバや主の兄弟ヤコブ、アンドロニコとユニアスといった人々が聖書には記されている。→使徒14:4, 14、ローマ16:7等 彼らは一地方、一教会に限定されず、全教会に対して責任と権威を持つ。彼らはキリストの教会の最も大切な基礎を据える人々である。②預言者…御霊の導きによって神のみこころを受け、それを人々に伝える働きをする。彼らは罪を自覚させ、間違った道から引き戻し、又、みことばによって励ますのである。③教師…信仰と生活の実践について信徒たちを教え導く働きをする。当時は印刷機もコピー機もなく、手書きの写本のみであり、聖書のみことばは、それを知っている人に教えてもらわなければならなかった。その役目を果たしたのが教師であった。以上の三つは教会の教育的職務に関するものである。

④奇蹟を行う者…主イエスがなされたような様々な力あるわざを行う者。

⑤いやしの賜物を持つ者…病気をなおすことのできる能力をもつ者。④と⑤は超自然的な能力であるがそれらはいくまでも福音が宣べ伝えられるためのものであって、福音以上に強調されてはならない。⑥助ける者…病む人々、弱い立場にある人々のために助け援助する。これは執事の立場に相当する。⑦治める者…生活と行いの全般にわたって教会の方向を導き、責任をもって取り締まっていく働きをする。これは長老の立場に相当する。⑧異言を語る者（これには異言を解き明かす者も入っているであろう）…恍惚とした状態で意味不明のことばを語る者。パウロがあげたリストの一番最後に置かれているのは、賜物の中でも最下位にランクされることを意味している。パウロはこのようにしてコリント教会の異言に対する過大評価や過度の熱中を冷まそうとしていると考えられる。教会はこのような種々の賜物が互いに結び付けられ、正しく用いられて成長し前進していかなければならない。

[29-30]「みなが使徒でしょうか。みなが預言者でしょうか。みなが教師でしょうか。みなが奇蹟を行う者でしょうか。みながいやしの賜物を持っているでしょうか。みなが異言を語るでしょうか。みなが解き明かしをするでしょうか」

これに対する答えは当然、そうではないということになる。→12:19 教会を構成する一人一人がそれぞれの賜物を用いて務めや役割を分担し、仕え合って教会を立て上げていくことが大切なのである。

[31]「あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう」

パウロはここで、各人がよりすぐれた賜物を熱心に求めよとすすめる。しかし、それはあくまでも12:7節にあるように「みなのため」であって教会に混乱を起したり、高慢になるためではない。それでパウロは次の13章に至る序言として「私はさらにまさる道を示してあげましょう」とコリント人たちを導いていく。この「道」とは賜物を賜物として有用、有効、有意義に生かしていくための道のことである。

私たちも神のため、教会のため、与えられている賜物を有効に用いて励んでいかなければならない。